

# 平成27年度 徳島県田園環境検討委員会

## I 日 時

平成28年3月14日（月）13時から16時30分

## II 場 所

- ・委員会 徳島県庁10階 特別大会議室
- ・現地視察 鳴門市大津町

## III 出席者

【委員】大仲香織，角野康郎，木元美和，上月康則，松本真也  
矢野幹雄，山田量崇，渡辺雅子（アイウエオ順敬称略，10名中8名出席）

【 県 】 農林水産基盤整備局長，農山漁村振興課長他

## IV 委員会次第

- 1 開 会
- 2 開会の挨拶
- 3 議 事
  - (1) 現地視察
    - ①農業競争力強化基盤整備事業 大代戎野地区
    - ②コウノトリの「生活状況」及び「定着への取組み」について
  - (2) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について
  - (3) 農業農村整備事業の環境配慮実績について
- 4 閉会の挨拶
- 5 閉 会

## <配付資料>

- 資料1 会議次第
- 資料2 配席図
- 資料3 委員名簿，徳島県田園環境検討委員会等設置要綱
- 資料4 審査地区の環境との調和への配慮取組み
- 資料5 環境配慮実績

## V 会議録（要旨）

### 1 開 会

### 2 開会の挨拶 農林水産基盤整備局長

### 3 議事

#### (1) 現地視察

##### ①農業競争力強化基盤整備事業 大代戎野地区

大代戎野地区の事業概要及び環境配慮対策等について、県計画担当者より説明

##### ②コウノトリの「生活状況」及び「定着への取組み」について

コウノトリ定着推進連絡協議会 事務局担当者より説明

#### (2) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について、県事業担当者より説明

##### ①農業競争力強化基盤整備事業 大代戎野地区

#### 【委員】

植物調査で10種の希少種が確認されているにもかかわらず、配慮対象種が3種のみとなっているのはなぜか。

#### 【県】

配慮対象種以外の7種については、直接、工事の影響を受けない範囲で生息しているため。

#### 【委員】

排水路の底部、柵渠のアームの間に埋め戻す泥の深さはどれくらいか。

#### 【県】

水路幅にも依るが、概ね150mm。

#### 【委員】

その深さは、「ドジョウ」などの動物にとって十分な深さか、確認していただけたらと思う。また、本地区では、数多くの魚類が確認されている。環境配慮に対する地元農家の理解はどうか。

#### 【県】

農家の希望としては、通常の柵渠での要望が強いが、農業農村整備事業においては、環境配慮は原則であるため、生物に配慮した排水路（環境配慮型水路）での実施ということで、地元農家には説明している。

#### 【委員】

水路構造にかかわらず、水路とれんこん田を一体的に保全することで、魚類の生態系保全に結びつく。このことを地元農家さんにも説明いただければと思う。

#### 【委員】

有識者の意見において、排水路を「現況のまま残せるように配慮できないか」とあるが、地元農家の意向と異なるように思う。どのように調整を行うのか。

#### 【県】

設計段階から、専門家と協議し、検討していく。

**【委員】**

「コウノトリ定着推進連絡協議会」から、本地区の排水路工事に関して、要望等はなかったか。

**【県】**

隣接の継続地区でも、協議会と調整しながら事業を進めている。本地区においても、協議会と調整を行い、要望等があれば、可能な限り対応したいと考えている。

**【委員】**

住民の意向（アンケート）調査の結果から、地域の目指すべき姿が見えてくる。この結果を有効活用し、「コウノトリ定着推進連絡協議会」と情報共有を図り、対策をしていただきたい。

**【委員】**

今後、コウノトリの個体数が増えた場合に、定着が維持できるか。

**【県】**

担当課から聞いた話では、大麻の方では、冬場も水を張ったり、水田魚道をして、広く浅い餌場の創出に努めている。また、第十堰の方でも確認されていることから、かなり広範囲に行動しており、餌場となる所は充分あるように思う。

**【委員】**

オニバスについて、これまでは「ため池」で多く観られた。本地区においては、排水路であるため、残すところによっては、流水を阻害する恐れがある。オニバスは非常に大きくなることもあり、水路管理と環境を考えた場合、どのように保全していくのか。

**【県】**

「水路断面を阻害しない範囲」で保全することになる。専門家とも調整を行い、事業を進めていきたい。

**【委員】**

オニバスは、種子を播くだけで、きちんと定着するのか。隣接地区をみていると、4～5年で消滅している。

**【県】**

種子は、底泥の中で約50年間生きると聞いている。何かの拍子に発芽するが、天候等の影響もあり、そのようになっていると思われるが、対策については専門家の意見を聞きながら対応していきたい。

②農業用河川工作物応急対策事業 神野地区

**【委員】**

河川内でどのように工事していくのか。

**【県】**

河川を完全に締め切って施工することは不可能。半分ずつ締め切って工事をするなど、段階を踏んだ施工を予定している。無論、出水期は避ける。

**【委員】**

本地区の事業は、老朽化した河川工作物の改修事業であり、工事のやり方を工夫すれば、在来植生の保全は充分可能と思う。

**【委員】**

配慮対象の魚類の選定基準は。

**【県】**

事業の主旨を考慮した「配慮魚種」を選定している。

**(3) 農業農村整備事業の環境配慮実績について、県事務局担当者より説明**

**【委員】**

カワバタモロコの実績について、継続的に水質調査を実施しているが、これまでに集計された調査結果についても提示いただきたい。

また、カワバタモロコの実績について、今後、再放流する計画はあるか。

**【県】**

今年度、実施したモニタリング調査では、漁具の都合上、稚魚の確認ができなかった。来年度改めてモニタリング調査を行い、結果を分析したうえで、放流計画について検討する。

**【委員】**

一万匹を超えるほどに増殖が図れているので、小規模な環境下で再放流実験をするなどして、現場環境をどのようにするか等の検討をしてみるのも良いと思う。

**【委員】**

カワバタモロコの実績は、現時点では、絶滅させないための一時的な措置であるため、「本来の生息地への定着」という本来目的を実現できるように取り組んでいただけたらと思う。

**【委員】**

実績等経緯一覧を作成するのは非常に良いことだと思うが、モニタリング結果について、失敗例の分析までを行い、今後の環境配慮に活かしていただきたい。

**【県】**

今後の事業地区に活用できるように、本様式に失敗事例の原因等を分析した結果を追記するなどの検討を行う。

4 閉会の挨拶：農林水産基盤整備局長

5 閉 会